

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	O670400738		
法人名	有限会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成 25年 11月 28日	開設年月日	平成 15年 04月 01日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と共に毎日ラジオ体操をし、歌を唄ったり、音楽を聴いたりゆっくりと過ごして頂いております。入浴は、一人ひとりゆっくりと入って頂いているので、プライバシーが守られています。食事は、季節の食材を使用したりと工夫し、ゆっくりと召し上がって頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成 25年 12月 26日	評価結果決定日	平成 26年 1月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日課の朝のラジオ体操の後、職員からの「今日は何日ですか?」の問いかけに手作り歌詞カードのその日のページから皆の歌が始まりホールに響きます。そこには笑顔があり、思いやりがあり、理念の「自由で楽しくゆっくりと」の暮らしが実践されています。毎日が利用者のペースで、時間にとらわれず、ホールに貼られた行事の写真を見ながら思い出話に花を咲かせて、皆との会話を楽しんでいます。家族には事業所での様子や近況報告を添えた「ふいりあ通信」を送付して安心と信頼をもらい、利用者・家族の支えとなっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、厨房に掲示して毎朝朝礼で唱和している。ケア会議等でも職員全員で唱和し実践につなげている。	利用者の気分やその日の体調を大切に、理念に沿って時間を気にせず無理強いしないで、自由にゆつくと過ごしてもらおう事を心がけ、笑顔がみられる話題を提供し皆で会話を楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に地域のスーパーに食料品を買いに出掛けたり、地域の夏祭り等に出掛けたり、出来る限り行事に参加して交流を図っている。	町内会に加入し、職員は公園の清掃や草むしりに出向いている。クリスマス会には大正琴のボランティアが来訪し、楽しいひとときのスナップ写真を掲示して思い出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で認知症について地域の方に理解して頂くため話し合いを行っている。地域の行事等にも出来る限り参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、事業所の状況報告やその時期に関わる議題を決め検討したり、意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	会議は奇数月の第4火曜日と決めて開催している。市担当者からは地域との交流や他事業所の好事例などアドバイスをもらったり、事業所からも感染症予防対策など研修で得た話題を提供している。	開設して10年が経過し、運営推進会議の意義を再度見直し、より多くの方々からの参加が得られるよう、今後の会議のあり方に検討と工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に市の担当者に出席頂き、いろいろな意見やアドバイスをお聞きして市との連携を図っている。	市や地域包括支援センターの担当者とは取り組みの相談や訪問看護師の依頼などで連携を図り、事業所の実情を理解してもらおう関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当初より玄関の鍵はかけていない取り組みをしてきたが夕方帰宅願望の強い利用者が入所している為、時々玄関に鍵をかける事はあるものの、出来る限り職員が対応している。玄関にはセンサーコール、鈴を取り付け鍵をかけない工夫をし、拘束しないで過ごせるように職員全員で取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては社内研修で周知している。出かけたがる利用者の対応はケア会議で話し合い、食事の手伝いをしてもらったり、デイケアサービスに出かけるプランを組み込むなど、自由な暮らしを見守りながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止法等について社内研修を受け学んでおり、利用者の身体チェックも常に行い防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修を受け、実際にその制度を活用しようとしても、利用者からの理解が得られないことがある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明し、特にリスクについては詳しく説明した上、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議等で家族の意見や地域の方の意見等は聞けるようになってきている。	普段の会話やモニタリング時などに利用者が選択し易い言葉がけで思いや意向を汲み取るようにしている。家族等には毎月のふいりあ通信で事業所での様子を伝えたり、電話で相談し合いサービスに反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り月1回のケア会議にも全員が意見を出しやすいように配慮している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回ケア会議を行い、職員全員と代表者に参加頂き、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者もできるだけ職員とのコミュニケーションを取りながら意見を聞けるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社側と職員一人一人の面談が定期的に行われ、希望、要望など話し合ってる。	月2回の法人研修にはシフトに合わせて職員全員が参加し、毎月のケア会議でも外部研修の報告などを行い自己啓発に努めている。また、資格取得にも応援体制がありレベルアップが図られている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会社全体の研修が月2回開催しており、全職員が参加できる様に配慮されている。外部研修も積極的に参加して自社に戻って研修発表をしている。	グループホーム置賜地区ブロック会の研修会には管理者はじめ職員も参加し、勉強や交流をしながら取り組みなどの情報を得て、サービスの質向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人と面談し、要望や生活状態を把握し不安などを充分話し合い、受け入れて頂けるよう心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前、本人との面談はもちろん家族の要望、不安等を聞き出来るだけ思いに沿ったサービスができるように話し合いを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや家族の思い、実情を聞いて何が必要か見極め、職員と話し合いを行いサービスにつなげている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で過ごしている時と同じように、穏やかで自由な生活ができるように声掛けをして寄り添っている。料理を一緒に作ったり、洗濯物を干したり、掃除をしたりと、ごく普通の日常生活を送って過ごしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加だったり、面会に来て頂いたり、家族の方には連絡を取り、施設での様子を話しており、家族の方からも色々協力して頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者によって馴染みの人だったり、物だったり、場所だとその人にあった関係づくり、支援につとめている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しく過ごす時間作りをして、利用者同士が声をかけあったり出来るよう職員も情報を共有し、見守り、支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方や家族にも、いつでも立ち寄って頂けるような声かけをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不穏の強い利用者に対しては、出来る限り寄り添う時間を大切にして、表情や行動、言葉などから思いを把握するよう努めている。家族からも情報を得て、出来るだけ思いに沿ったケアに努めている。	本音が聞ける入浴時や居室での時間を大事にして、思いや意向の把握に努めている。ちょっとした気づきはメモを貼って職員間で共有し、業務日誌やケア記録に転記してプラン作成に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、プライバシーに配慮した生活歴などを聞いている。入居後も、関わりの中で聞いたり、家族の面会時にも聞いて把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルから1日が始まり、心身状態を把握して、一人一人の出来る力を引き出しながら、強制せず個々のペースで1日を過ごして頂けるように心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で個々の生活機能、健康状態、精神面について話し合い、家族と本人、主治医の意見を取り入れて計画作成している。	ケア記録を確認しながら支援経過をまとめ、ケア会議で課題はないか・心配なところはないか、など皆で話し合い、利用者・家族の希望を取り入れた介護計画を作成し、状態の変化に応じて見直しも行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きや工夫等を個別記録に記載しケア会議等で、情報を共有しながら介護計画の見直しにも活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事には出来る限り参加し、グループホームを理解して頂いて、散歩に出掛けた時など気軽に声をかけて頂けるような雰囲気を作って、地域全体で支えられるように努力しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医の他に本人や家族が希望する馴染みのかかりつけ医がいる。協力医の往診は月2・3回行っている。	馴染みのかかりつけ医がいる方は家族対応で通院しているが、ほとんどの利用者は事業所の協力医から定期的な往診を受けている。利用者の変化に応じバイタルチェック状況や必要な情報を提供し、急変時にも昼夜を通した協力体制を築いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には看護師さんの気付いたこと等、日常の健康管理のアドバイスを頂いている。隣接の事業所の看護師さんに常に相談等できる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は交代でお見舞いに行くようにしており、退院にむけての面談、退院後留意点など詳しい説明を受けるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても在宅生活が可能限り、本人及び家族の意向に添い事業所で出来る事を十分説明し支援していく。	重度化した時は主治医・家族等と話し合いを持ちながら、事業所として出来ることを説明し、ケアできる段階までは支援していくことで家族等の理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全員受けており、急変時対応マニュアル等も活用し、誰でも対応出来るように見える所に置き、各自でも復習しながら実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害(火災・地震)のマニュアルを活用し、誰でも対応出来るように復習しながら身に付けるようにしている。	定期的な避難訓練を通して、通報・初期消火・避難誘導・点呼等を確認し、消火器の取扱いや非常ベル操作を行い、全員が災害時のマニュアルに沿った行動が出来るようにしている。	日頃より避難経路・避難口等の確認をすると共に、夜間想定訓練の計画・実施にも期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉使いに気をつけ、不適切な時はその都度声がけをし、直して行くように心がけている。	生活歴・行動歴を把握し、丁寧な言葉遣い・声掛けで、自尊心を傷つけないよう心掛けている。誤飲防止の為にティッシュなどの置き場所に気を付け、トイレの開閉時などプライバシーにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな場面において利用者様が自己決定出来るように選択肢を提案するよう心がけている。意思表示できない利用者様においても、表情などを見逃さず本人の思いを把握するようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは有るものの、時間で区切ることをしないようにし、一人一人のペースに合わせて柔軟に対応している。歌やレクリエーション等においても強制せずそれぞれのペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴・洗髪後の整容や毎朝の着替え等も出来るだけ本人に決めて頂く様にしている。行事や外出時にも出来るだけ本人の希望を聞いておしゃれを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考えながら、偏りのないように一緒に食事の下準備をしたり、後片付け等をしている。ご飯茶わんも箸も一人一人の物を使用し食事を楽しんで頂いている。	嗜好や状態に合わせ、きざみやほぐして形態を変え、食べ易い食事を作っている。それぞれが決まった場所で愛用の茶碗・箸を使い、皆で下ごしらえした料理を楽しく味わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に水分摂取量を記入し、個々のケア記録に食事摂取量を記入して把握している。飲み込みが悪いような方には飲みやすいものに変えたり、1日の量を摂取出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけを行い、夜寝る前には歯磨きの声かけを行っている。入れ歯の方は夜に外して頂き、洗浄剤につけおきして清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握して声かけにて誘導している。日中は出来るだけトイレでの排泄が出来るよう利用者の様子や行動にも気を付けて見守りや声かけを行っている。	食事や就寝などの行動前に声掛けしたり、排泄パターンによりトイレ前まで誘導し、羞恥心や自尊心にも配慮している。また、歩き易いよう通路に手すりを設置し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬だけに頼るだけでなく、食べ物や水分・運動等にも出来るだけ工夫をしている。例えば、ヨーグルト等の乳製品を出したりし、散歩・体操を行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の目安で入浴を行っていますが、希望があれば他の日にも出来る体制にはなっている。ゆっくり入浴して頂けるように順番にも配慮している。	浴室や脱衣場は寒くないよう気を配り、1対1の対応で時間をかけてゆっくりと楽しんで入浴している。浴槽に椅子を入れたり手すりを設置したりして、転倒防止など安全面にも工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の表情や体調に考慮しながら午睡の声かけをしたり、いつでも休める場所(ソファーや椅子)で休息出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明を活用し、職員全員で確認・理解しながら服薬確認、症状の変化の確認につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野、好きな事を尊重し、役割を見つけ、力を発揮出来るような支援をしている。また、常に感謝の気持ちを伝えるようにしている。気分転換を図り外食に出掛けたり、コンサートに出掛けたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、戻ってこれない利用者様がいる為、希望に合わせ職員と共に散歩に出掛けている。	普段は散歩やスーパーへの買い物支援を行っている。外出行事は前月のケア会議で話し合い利用者の希望を取り入れ、ドライブ・外食・夏祭り・ヘルパーと行く旅等の外出で気分転換を図り、意欲の向上に繋げている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の支払の際には預かり金を渡し、出来るだけ本人に支払って頂く様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話は使用出来るようにしており、希望があればいつでも対応出来る状態にある。手紙はなかなか書く機会がないし、たまに声かけを行っても、なかなか手紙を書く方がいない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下には皆様に楽しんだ思い出の写真や、折り紙、塗り絵の作品を飾っており、それを見て思い出したりしています。	ホールには皆で唄う「上杉節」の歌詞やイベント写真の貼り出し等で会話が弾む工夫をし、ソファで寝入る猫が癒し空間を創っている。床や通路の掃除機がけ・手すり拭きなど利用者は生活リズムの中で行き、居心地良いスペース作りを職員と共に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルと椅子を置き、いつでもそこで休んだり、談話したり出来る空間に確保し居場所の工夫をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子、写真や日用品等持ってきて頂き、生活スタイルも本人に合わせて居心地の良さに配慮している。	タンスや馴染みの物を持ち込み、家での生活と同じように過ごしている。掃除・衣類の整理・スイッチの操作等できることはやってもらい、職員はさりげなく手伝い見守っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・廊下・浴室に手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。また利用者様本人の不安・混乱を取り除き状況に合わせた対応を心がけている。			